

# 川 根 本 町

2025年1月号

# 図 書 室 だ よ り

# 1 月

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内6コース  
TEL:0547-59-3106(文化会館)  
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時~午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(19日)・祝日の翌日(14日)  
年末年始(28~1/4日)
- ☆ やまびこ号巡回6コース



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。  
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

## 新着 図書



「川根本町インターネット図書室」では  
新刊の詳しい情報や 蔵書の検索が可能です。



川根本町  
インターネット  
図書室  
ホームページ



図書だより  
ブックナンバー

目からウロコの  
片付け術



文

古堅純子 監修  
宝島社

笑いとおもしろさは  
こうして生まれる



文

三谷幸喜/松野大介 著  
講談社

編んで使って  
楽しむ!



山

ブティック社



山

吉本ユータヌキ 著  
サンクチュアリ出版



文

なばたとしたか 作  
ロクリン社



文

柴田ケイコ 作  
KADOKAWA



山

山口敏太郎 著  
西東社



山

ヨシタケシンスケ 作  
PHP研究所

裏面へ続く

※所蔵状況 文 文化会館図書室 山 山村開発センター図書室

## ◎ 新着図書

🔍 「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『日比野豆腐店』 小野寺史宜 著 徳間書店 東京の町なかにひっそりと佇む「日比野豆腐店」。店主の清道を亡くした日比野家は、厳しいながらも手を取り合って店を切り盛りしていた。「日々の豆腐」という意味も込められた豆腐屋で、ひたむきに生きる人々を描いた心揺さぶる家族小説。</p>	<p>● 『架空犯』 東野圭吾 著 幻冬舎 燃え落ちた屋敷から見つかったのは、都議会議員と元女優夫婦の遺体だった。華やかな人生を送ってきた二人に何が起きたのか。「白鳥とコウモリ」シリーズ。『小説幻冬』掲載に加筆・修正、書き下ろしを加え単行本化。</p>
<p>● 『真珠王の娘』 藤本ひとみ 著 講談社 1944年10月、帝國真珠ロンドン支店の早川薫に英国首相チャーチルから真珠の胸飾りが手渡された。薫は帰国し、日本で唯一修復できる水野家に向かう。真珠細工師の母と二人暮らしの水野冬美の父は、帝國真珠の創業者・藤堂高清で...</p>	<p>● 『午後の最後の芝生』 村上春樹 著 スイッチ・パブリッシング 村上春樹が作家デビュー3年後に発表し、いまなお多くの読者から愛され続けている短篇小説。1987年刊行のPR誌『たて組・ヨコ組』にて挿絵として掲載された、盟友・安西水丸によるイラストレーションを添える。</p>
<p>● 『虚の伽藍』 月村了衛 著 新潮社 日本仏教の最大宗派・燈念寺派で弱者の救済を志す若き僧侶・志方凌玄。バブル期の京都を支配していたのは、古都の金脈に群がる魑魅魍魎だった。腐敗した燈念寺派を正道に戻すため、あえて悪に身を投じる凌玄だが、金にまみれた求道の果てに待っていたのは――。圧巻の社会派巨編。</p>	<p>● 『五葉のまつり』 今村翔吾 著 新潮社 刀狩り、太閤検地、醍醐の花見など、豊臣秀吉が仕掛けた大事業を縁の下で支えたのは、尊敬と嫉妬のまなざしを浴びながら五奉行と呼ばれるようになった男たち。ぶつかることも多いが互いの才は認め、敵対勢力の横槍をはねのけ、力を合わせて難事に立ち向かう。『八本目の槍』に次ぐ、石田三成をめぐる歴史お仕事傑作巨篇！</p>
<p>● 『小鳥とリムジン』 小川糸 著 ポプラ社 家族に恵まれず、生きる術も住む場所もなかった女性・小鳥。18歳の時から介護していた、父親と名乗る「コジマさん」が亡くなった日、ずっと心惹かれていたお弁当屋さんのドアを開けて...。心と体を取り戻す、いとおしい物語。</p>	<p>● 『夜更けより静かな場所』 岩井圭也 著 幻冬舎 人生は簡単じゃない。でも、後悔できるのは、自分で決断した人だけだ。 古書店で開かれる深夜の読書会で、男女6名の運命が動き出す。直木賞(2024年上半期)候補、最注目作家が贈る「読書へのラブレター」！</p>

## おすすめ図書

### 『35年目のラブレター』 小倉 孝保 著 講談社

読み書きができないまま社会にでた【西畑保さん】の半生を綴った本です。

西畑さんは、小学校でのつらい体験から2年間しか学校に通えなくなり、毎日家の手伝いをして過ごしていました。

やがて、手に職をつけて真面目に働きましたが、食堂で注文を読んだり書いたり出来ず、怒られたり、怒鳴られたりする日々が続きました。

社会の厳しさを目の当たりにし「読み書きができない者は、1人前の人間と認めてもらえない...。」と何度も布団の中で泣いたそうです。

読み書きができないこと知った奥さんは、「今までつらかったでしょう。」と優しく寄り添い、

西畑さんを励まし続けました。西畑さんも、努力をかさね、たどたどしくも文字も書け、読めるようになります。

その時々で出会えた優しい人々がいたこと、支えてくれた奥さんの存在があったことが、西畑さんの人生をととても幸せなものにしてくれました。

還暦をすぎて夜間中学校で読み書きを学び、結婚35年目に愛する妻にラブレターを書いた西畑さん。夫婦と家族の心温まる実話に心があたたかくなる1冊です。

2025年3月7日(金)映画化公開。

図書館スタッフN



山村開発センター図書室所蔵